

令和5年度 教科担任制に取り組んだ 成果と課題

～「多面的な児童理解の側面」から～

大竹市立小方小学校

本校の体制 8教科型

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任:A)	A	A	A	A	推進	専科	A	専科	A	A	A	A	A
5年2組 (担任:B)	B	B	B	B	推進	専科	B	専科	B	B	B	B	B
5年3組 (担任:C)	C	C	C	C	推進	専科	専科	専科	C	C	C	C	C
教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任:D)	D	D	D	D	推進	専科	D	専科	D	D	D	D	D
6年2組 (担任:E)	E	E	E	E	推進	専科	E	専科	E	E	E	E	E

「多面的な児童理解」から

【成果】

・授業の様子を随時「報告・連絡・相談・確認」することで、担任には見えていない姿を知ることができた。例えば、授業中頑張っていたことや成長したことを教えてもらうことで、その教科担任と学級担任で合わせて誉めることができた。また、授業後には、児童が、異性の教員に話しにくいことや、担任には話していない悩みや不安を打ち明けるなど、心のケアにもつながった。

「多面的な児童理解」から

【課題】

・教職員と児童の距離感が近くなりすぎる場合がある。

例えば、友達口調で話したり、目上の人に対して失礼な言動をとったりすることもある。

教員間で指導にズレが生じないように気を付けたい。